

かけはし



イタリア・トレビーズの友だちと交流しよう！

市役所本庁舎14階1402会議室 3月26日

3月26日16時15分から、Webカメラ会議形式の「イタリア・トレビーズの友だちと交流しよう！」が初めて開催されました。今回は、一宮市の友好都市がありイタリア北部に位置するトレビーズ県の小学4年生と、抽選で選ばれた一宮市在住小学3～5年生との、それぞれ20名程の参加で、国際交流員のキアラさんの通訳で始まりました。日本側は5～7名を各30分2回に分け、それぞれの回で両国側からの質問とその返答のやりとりで会は進められました。

日本の子どもは春休み中で夕方でも集まることができましたが、イタリアは春休みがなく現地時間朝8時15分ですので小学校の教室から授業の始まる前に集まってもらいました。

最初は緊張していましたが、「チャオー」、「こんにちは」とお互いのあいさつの言葉を教えてもらううちに、うまく言えて拍手が自然とわき緊張もほぐれ、おだやかな雰囲気スタートしていきました。

お互いの名前の紹介、授業の様子や好きな科目、制服の話(イタリアの小学校は制服あり)、好きなスポーツや遊び、有名なところや印象などの質問と矢継ぎ早に進んでいきました。日本側から「好きなイタリア料理はなに？」との質問に、イタリア側の返答「パスタやピザだよ」「日本の皆はなにが好き？」日本側の返答「すしやラーメン、うどん」とお互いの食べ物の話になっていきました。そして日本でも皆パスタやピザが大好きで、イタリアでも寿司が好きだと言う子もいることがわかり、これぞ直接交流してわかり合えるきっかけかなと思いました。また、2回目の子どもたちはイタリア国歌を披露、こちらも君が代を返礼披露して、国際交流を身をもって体験できたと思います。このような遠くに住んでいる海外の子ども同士が簡単にWebカメラで話し合える機会がまたあればと思いました。(あんちゃん)



▲1回目のメンバーたち



▲2回目のメンバーたち

名古屋大学短期プログラムホームステイ 体験談

3月1日～3月3日

浅井さんファミリー



はじめてのホストファミリーとして、カンボジア出身のリエン・ダボットさんをお迎えしました。2泊3日と短い期間でもあり、どこまで深くコミュニケーションが出来るか不安でしたが日本の歴史と法律を勉強していると聞

いたので、タイミングよく雛祭りの時期でしたので江戸時代から始まったと言われる雛祭りのひな壇を見に、一宮市の堤治神社へ出向きました。また、江戸時代から現存している犬山城で、江戸時代の遊び「投扇興」にも挑戦したり日本の伝統と歴史に触れてもらうことができました。

投扇興は、初めてでしたがコツを掴むのが上手



で成績は2位となりました。賞金の小判1両を貰えましたし、日本の伝統を感じつつ良い思い出となったのではないのでしょうか。

また、カンボジアでは登山をしていると聞きましたので、近郊の山に出向いて日本の登山道も体験してもらいました。私はついて行くのに精一杯でした(笑)登山後にはお腹が空きますから、夕食時に手巻き寿司用の酢飯を作るなど母国にない食事文化も楽しんでもらいながら楽しい夕食を過ごしていただきました。

初めての海外、初めての日本ということもあって、最初は緊張している様子がありましたが徐々に打ち解けてくれたと思います。ホームステイは短い期間でしたが、私の家族にも良い経験をさせていただけたのと、今後も留学生の皆さんが、日本と母国の「かけはし」となるよう心から願っております。



新川さんファミリー



今回、名古屋大学短期プログラムホームステイに参加し、我が家にはウズベキスタンの大学で日本語を勉強してい

るロリータさんが来られました。

ロリータさんは日本語がとても上手で、1日目の夜はカレーを一緒に作り、日本のどんなことに興味があるのか、日本では何をしてみたいか、何が食べてみたいか、ウズベキスタンではどういった生活をされているのかなどいろいろな話をし、一緒にホームステイ中の計画を立てました。

次の日は近くの神社でお参りをし、名古屋港水族館へ行きました。ウズベキスタンには海がないことから、大きな水族館は初めてとのことで大変喜んでもらったのではないかと思います。

最終日は岐阜市梅林公園の梅まつりに参加し、満開の梅の花の下でお祭りイベントを楽しみました。子供と一緒に人力車に乗っていただくなど私たちも貴重な体験ができました。

ホームステイの受入を通じて、日本のことを好きな外国の方と日本らしさや日本の良さを再認識しつつ交流を楽しみ、留学生の方の出身国に理解を深める非常に良い経験になったと思います。



ニュージーランド料理セミナー ～Pavlova & Sausage Sizzle～

神山公民館 料理実習室 3月2日

3月2日、国際交流員のアリスさんを講師にニュージーランド料理セミナーが開催されました!!

今回は、国民的なケーキ「パヴロヴァ」と「ソーセージシズル」というサンドイッチを作りました。

「パヴロヴァ」はメレンゲを焼いた生地に生クリームやフルーツで飾り付けし、外はサクッと中はマシュマロのようにふんわりとしたケーキです。ニュージーランドではクリスマスに食べる人が多いそうです。

卵白をハンドミキサーで泡立て、生地となるクリームを作る際、ステンレス製のボウルにミキサーが当たるとステンレスが削れてしまうため、ボウルにミキサーを当てないようにと真剣な表情で作業



をしていました。
2つめの料理「ソーセージシズル」は、太いソーセージを三角に折った食パンに挟

み、トマトソースをかけたサンドイッチです。ニュージーランドではチャリティー活動の時に売られているそうです。



「シズル」というのは、食材を焼くときの音が由来なのだそうです。食材を焼くおいしそうな音と香りが漂い、試食タイムが始まると皆さんおいしそうにペロリと食べていました。

参加された人は「楽しかった。家でも作ってみたい!」と笑顔でお話していました。(ぽん)



イタリア料理セミナー ～Buono!ゼロからパスタを作ろう!～

尾西生涯学習センター 料理実習室 5月25日

イタリア生まれの国際交流員キアラさんの企画でイタリア料理のセミナーが行われました。



美味しいパスタを作りたいと集まった参加者は22名。その多くは女性で男性は数名という構成。種類の多いパスタの中から今回はイタリアの家庭で好まれるニョッキを、ジャガイモを丸ごと茹でるところから始めます。それに合わせるミートソースも牛・豚・鶏肉をトマトにからませ煮込みます。デザートは苺ジャムのパイ、クロスタティーネも小麦粉・塩・バターをこねるところから。まさにゼロから作るイタリアの味ですね。

参加された皆さんは普段の料理とは勝手が違い手こずる場面も。そんな時キアラさんが各テーブルで丁寧に解説をして回り、参加者もそこで納得の表情。そんな中、少数派の男性参加者がなかなかの健闘ぶりを発揮していたのが印象的でした。



料理が完成するころ、調理室はイタリアの香りに包まれています。「いただきま〜す」の掛け声でいよいよ実食!参加者全員の顔が美味しい笑顔で満たされていたことは言うまでもありません。(you 都市)



イタリア料理セミナー ～カーニバルを楽しもう!～

神山公民館 料理実習室 2月23日

イタリア国際交流員のキアラさんが講師で、伝統お菓子づくりセミナーが開催されました。受講者に小、中、高生がいて、会場は若い活気に溢れていました。



「ボンジョルノ!」(こんにちは)とキアラさんのあいさつで始まりました。

イタリアのベネト州のカーニバルは世界的にも有名で、仮装してお祝いしま

す。キリスト教と関係があるカーニバルの語源は、肉を避けるという意味で謝肉祭にあたります。スライドでカーニバルの説明中、かわいい女の子の写真が出てきました。キアラさんから、「みなさん、この写真はだれでしょうか?」との質問に、だれも分かりません。「これは私ですよ」との答えに、「かわいい!」と、声があがり、一気に場が和みました。

今日のお菓子は、このカーニバルシーズンだけに食べられるお菓子づくりです。レーズンの入った「フリットレ」と「クロストリ」の二種類のお菓子をつくりました。

お菓子づくりの説明の前に、今日は油を使うので、「火傷などに気を付けてください」と注意がありました。

最初につくるフリットレは、ドーナツのようなお菓子で、その種類はたくさんあります。

フリットレの作り方の説明が終わると、全員が各テーブルに付いて作業の開始です。調理のボランティアさんが、受講生のアシスタントに付いてアドバイスをしました。



フリットレの作り方のコツは、材料を入れてからコネるところで、結構固いので力を入れなくてはならず、参加者は交代しながら、力を入れてコネました。時々、指で押してこね具合を感触で確かめて、頃合いになったらラップで覆って1時間発酵さ



せます。これを大きじスプーンですくい、油できつね色になるまで揚げます。冷めてから粉糖を適量振りかけたら完成です。

クロストリは材料を入れ、こちらをよくコネてから、生地を薄く1~2mmの厚さまで伸ばします。伸ばす際、麺棒で最後まで延ば

すところがコツです。これを長方形に切って、真ん中一文字に切れ目を入れます。これを油ですこし色付くまで揚げます。最後に冷めてから粉糖を適量振りかけて完成です。

高校生の受講者は、「家ではあまりこうしたことができないので、今日は作るのが楽しみで来ました」 家族3人で参加のお母さんは、「家庭で子供とお菓子づくりはたいへんなので、ちょうど良い機会だとはじめて参加しました。子供が楽しんでくれてよかったです」など、参加者は楽しそうでした。

出来上がって全員で、「マンジャーモ」(食べま



しょう)「ボンアッペティート」(いただきます)

会場から、「おいしい」、「レモンの風味がいいね」、「クロストリはあっさりしていて噛めば味を感じる」、「フリットレはレーズンの甘さとレモンの香りでおいしい」等、聞こえてきました。そのまま食べたり、いちごジャムを付けたりして試食をたのしみました。また、スマホで出来上がったお菓子や、自分とお菓子を撮ってる方もいました。イタリアのキアラさん直伝で、お菓子づくりを楽しんだセミナーでした。(ドリアン)



▲左:クロストリ 右:フリットレ

日本語ひろばジュニア ～木曜日教室がスタートしました！～

神山公民館 実習室・多目的室 毎週木曜日・土曜日

日本語ひろばジュニアが始まって15年。毎週土曜日10時からの授業に加えて、本年度5月より、木曜日18時からのクラスもスタートしました。木曜日夜のクラスは、始まったばかりなので参加者も少なめですが、岐阜聖徳学園大学の学生のボランティアも来てくれていますので、今後参加者が増えることを期待しています。

子ども達には楽しく、継続して通ってもらえるように日本語学習支援のほか、授業の終わりがけに折り紙を使ったゲーム、紙芝居やカルタ取りなどを混じえながら飽きない工夫をしています。また、日本の風習を身近に感じられるよう、ひな祭りパーティーやクリスマス会も企画され、子ども達とその家族、ボランティアとの交流に役立っています。その他、進路相談ができる説明会などアフターフォローも考えられています。

現在登録している子ども達は、小学1年生から中学3年生まで約24名ですが、都度参加人数は変動します。来日して1年未満の生徒も熱心に学び、日本語が上達してきています。

日本語を教えてくださいとご興味のある方は、ぜひ国際交流協会までご連絡ください。

(日本語ひろばジュニアボランティア にっしー)



English Free Talk @NIGHT

神山公民館 大会議室 4月26日

今年度のEnglish Free Talkは、参加希望者がより参加しやすいように昨年度の試行結果をふまえ、平日夜と休日に交互で開催することになりました。これはウィークデーの昼間働いている人や学生などが参加しやすいようにするためです。ただし開催日は1ヶ月おき、場所は神山公民館です。

今年度最初の回は、金曜日夜(18～19時)開催でした。今回のテーマは「What is your hobby?」。参加人数は26名とやや少なめでしたが、一宮市以外から参加した人や初めて参加したという人も数名いました。参加者はそれぞれ1席3～5名に分かれ、テーマを含めた自由な会話を楽しみました。

初めて参加した人の感想としては、「場所がわかりにくく、ここに来るのに勇気がいった」「うまく喋れなかったが、また参加したい」「外国人がもう少しいたらよかったが、すごく楽しかった」「この時間帯だと仕事帰りに参



加しやすい」など。今まで複数回参加した人を含めてとても好評でした。

事務局側からは、「今回参加人数が少なかったのは、案内をかけるタイミングが少し遅かったので、次回は改善したい。また、神山公民館に会場を変更したため少しわかりにくかったのかもしれない」ということでした。

今回も開始後30分経ったところで席替えを実施し、参加者がより多くの人と会話できるようにしたことはよかったと思います。また、会場が昨年度試行した場所に比べ、音の響きが少なくうるさくないので会話する環境としてとてもよかったと感じました。次回は8月23日金曜日午後の開催ですが、もっとたくさんの人が参加してくれたらいいなと思います。(katsu)



おとなりさん

今回は一宮市在住のトルコ人ドゥルスン エルシンさんを紹介しします。30年前に15歳で来日、苦勞を重ね現在は北名古屋市で解体工事会社を經營しています。15年前に結婚し、3年前にそれまで住んでいた北名古屋市から一宮市内に自宅を新築して引っ越ししてきました。以前倉庫だったところを改築し、3人の子どものための遊び場として室内遊戯場やバスケットゴール、本人用にはトレーニング機器を備えたジムも併設されています。取材中もダンベルの運動を止めることなく、時間を大事にするビジネスマンの真摯な性格が伝わってきました。

一宮市は北名古屋市に比べ土地はたくさんあり、広々としており、地方税・光熱費も安く、渋滞前の早朝だと会社まで20分で着くので住みやすいそうです。

故郷はトルコ北東部、黒海沿岸のオールドウ市、実家は前が海で風光明媚なところだと、なつかしように語っていました。トルコ暮らしより日本の方が長いので日本語堪能で、日本食も問題はなく、寿

司が大好きとのこと。ただ「日本人ははっきりと物を言わないし、心をどこかで閉ざしていると思うことが多い。もっとはっきりと自分の意志を伝えたい」

また、「ごく一部の外国人が法を犯しているけど、大部分の外国人は日本の法律を守り税金、社会保険、自動車保険を正規に払って暮らしています」と、この紙面で伝えてください、と言われました。

今後も日本で益々のご活躍をされることをお祈りします。

(あんちゃん)



ia information

ia ワールド スターフェスティバル

「第69回おりもの感謝祭一宮七夕まつり」の特設ステージで、イタリア、ブラジル、ベトナムの音楽や踊りを披露し、それぞれの国の七夕や星にまつわる祭りについて紹介します。

- ▼日時/7月25日(木曜日) 午後4時30分から6時20分まで
- ▼場所/尾張一宮駅前ビル(i-ビル) 3F シビックテラス 七夕ステージ
- ▼出演者/



イタリア アコーディオン演奏
アンジェロ・アキリーニ



ブラジル サンバステージ
オ・ペイシ O Peixe



ベトナム 歌謡・舞踏ステージ
大阪ベトナム友好協会

世界をあそぼう!フレンドシップフェスティバル2024

世界各国に関するステージパフォーマンスやクラフト体験など、大人も子どもも楽しめる国際交流フェスティバルを開催します!

- ▼日時/9月21日(土曜日)、22日(日曜日) 午前10時30分から午後4時30分まで
- ▼場所/イオンモール木曾川1階 ノースコート
- ※実施詳細は後日協会ホームページ等で公開します。

*iaでは、協会事業を支える国際交流基金への寄付を募集しています。詳しくはia事務局までお問い合わせください。



地球あっち こっち



一宮からフランスへ、
シャンティ競馬出場で初優勝 騎手 パントウラ晃政さん

「フランスで騎手になる」そう決めたのは中学3年の秋でした。夏に日本の競馬学校を受験したけど不合格、来年も受験をするか迷っていた時、母に勧められた高校留学と、海外で活躍する日本のスポーツ選手を思い出し、だったら自分も競馬の本場で騎手になる道を探そうと思い決心しました。

行き先はフランス(有名な凱旋門賞がある)に決まりました。しかし高校留学で騎手になれる保証はありません。先輩たちが「フランスにはそこらじゅうに馬が居た」との事だったので、「1年の留学で馬関係の人の知り合いを作っていけばそのうち競馬関係の人にも出会う!」という目標をもって出発しました。

留学中は近所の乗馬クラブに通ったり、ホストファミリーと騎手になる道を探しました。するとホストの姉が競馬学校の情報を見つけてくれ、ホスト家族の全面的応援の元、試験と実技で合格しました。その1か月後にコロナパンデミックでフランスはロックダウン。奇跡の合格でした。その後日本の高校を卒業し、フランスの競馬学校へ入りました。

競馬学校は、授業と厩舎での研修が交互にあり、馬に乗



る技術や知識はここで習得しました。有難い事にフランスにいる日本人の小林智調教師が僕を見習いとして引き受けてくれました。他の従業員は全員フランス人なので、自然にフランス語や馬乗りの技術も段々

と身につけていき、2023年6月に無事競馬学校を卒業しました。その後すぐにデビュー戦で5着。「初めてにしてはまあまあ出来かな」という感じでした。

しかし、学生ビザを就労に切り替えるのに時間がかかり、12月ようやくビザが下り、2024年1月パリ郊外のシャンティ競馬場にてレースに出場、初勝利をする事が出来ました。

最初に騎手を目指した14歳から実に7年、すごく遠回りをした様に見えますが、どの瞬間にも全く無駄がなかったように思います。そう思えるのは多分、自分なら出来ると思っていてその場を楽しんでいたからだと思います。それに僕は動物を幸せにしたいという最終目標もあるので(これは後日...)そこに辿り着くまで、まずは騎手として大舞台で活躍する姿を皆さんに見せられるよう、努力していこうと思います。



編集後記

2023年の夏は史上最も暑い夏と言われ世界各国でその影響がみられましたが、今年はどうなるのでしょうか。地球沸騰化とは驚くべき状況になってしまいました。なんとか食い止めて、未来の子どもたちにも多様な生物と豊かな自然を見せたいものです。最近積極的に環境問題の情報に触れるようになりました。地球全体に関わる大きな問題ですが、まずは自分にできることを考えて実行していこうと思います。(きなこ)

発行：一宮市国際交流協会 (〒491-8501 一宮市本町2-5-6 一宮市役所本庁舎9階 観光交流課内)

一宮市の国際交流協会の中心となって活躍いただく親善ボランティアを随時募集しております。

みなさんも親善ボランティアに参加しませんか?お気軽にお問い合わせください。

*この「かけはし」も親善ボランティアにより取材・編集されています。

ご意見・ご感想をお待ちしております。【TEL:0586-85-7076 E-mail:kokusai@city.ichinomiya.lg.jp】

当協会に関する情報はウェブサイトをご覧ください。【WEB:https://www.city.ichinomiya.aichi.jp/iaa/】